

## 当院において適合血の選択に苦慮した症例

横田 実季 永原 宏記 釘宮 弘子

宮崎県立宮崎病院 臨床検査科

### 【はじめに】

当院の輸血検査において、検査結果のみでは最終的な判定が難しく、輸血の際の適合血選択に苦慮した症例について報告する。

### 【症例 1】

94歳女性。当院での血液型検査で、オモテ O 型、ウラ A 型でオモテ・ウラ不一致となった。カルテを確認したところ、前医で以前は A 型 RhD 陽性であったが、今回 O 型 RhD 陽性と判定されたため、精査依頼で当院受診となっていた。A 型 RhD 陽性で輸血歴があったことから、A 型 RhD 陽性であると仮定して、追加検査を実施した。患者情報と精査から、A 型 RhD 陽性の可能性が高いが、遺伝子検査まで実施できないため、結果は判定保留として報告した。したがって、適合血の選択としては O 型 RBC、A 型または AB 型 FFP での対応とした。

### 【症例 2】

92歳女性。不応性貧血のため、当院で定期的に輸血を実施。抗 C 抗体保有のため、C(-)適合血を輸血していたが、新たに抗 E 抗体が検出された。輸血前の Rh 型をもとに、抗 C 抗体

は同種抗体、抗 E 抗体はミッキング抗体と考えて精査を実施した。精査の結果から、抗 C 抗体は適合血輸血により検出感度以下まで減少しており、今回検出された抗 E 抗体はミッキング抗体であると判定できた。当院での対応としては、適合血の選択は C(-)E(-)適合血であるが、確保が困難であるため同種抗体である C(-)適合血を優先させる対応とした。

### 【まとめ】

どちらの症例も前医での情報や輸血歴、検査歴といった患者情報がなければ判定できず、適合血の選択はできなかった。検査結果に加え、患者情報を踏まえた上での精査が重要であることが再認識できた。

〈連絡先〉宮崎県立宮崎病院 臨床検査科

TEL:0985-24-4181 (内線:2953)